

特別企画：2020年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

イオン北海道が首位へ

～上位50社の売上高合計はコロナ禍での巣ごもり需要で前年度比4.1%増～
はじめに

新型コロナウイルスの影響で巣ごもり需要が追い風となったスーパーストア業界。道内のスーパーストア業界に目を転じると2020年3月にイオン北海道(株)がマックスバリュ北海道(株)を吸収合併するなど、従前より大手グループによる系列化や寡占化が進む一方、中小規模のスーパーストアを取り巻く環境は厳しさが増している。

帝国データバンク札幌支店は、企業概要ファイル「COSMOS2」（登録社数147万社）を対象に、2020年度（2020年4月期～2021年3月期）に決算を迎えた道内企業（約7万社）から、スーパーストア経営者を抽出、売上高ランキング（不動産賃貸収入等を含む）を作成した。なお、売上高は推定値を含む。

～調査対象～

1. 原則として生鮮3品を扱い、セルフサービス方式を採用する法人
2. 北海道内に本社を置きスーパーストアを展開する法人
3. 北海道内に本社を置き店舗展開する生活協同組合（大学生協を除く）
4. 売上高は不動産賃貸収入等を含み、店舗数は上記の対象店舗とする

調査結果（要旨）

1. 2020年度のランキング第1位は、期初にマックスバリュ北海道(株)と合併したイオン北海道(株)。売上高は前期比65.5%増の3384億5600万円を計上した。第2位は前年度まで13年連続して首位だった（生協）コープさっぽろ。第3位は（株）ラルズ。また、前年度第11位だった（株）道南ラルズが第10位とベストテン入りした。
2. 大手3強のグループ別売上高は、第1位が店舗数168、売上高3384億5600万円のイオン北海道(株)。第2位は（生協）コープさっぽろ及び業務提携する（有）魚長及び（株）中央スーパーのグループ。第3位はアークスグループ。
3. 上位50社の売上高合計は1兆2405億400万円で前年度比4.1%増。上位10社の売上高合計は1兆1060億6900万円で同6.8%増。上位50社の増収企業（横ばい含む）は29社、減収企業は21社。

1. 売上高ランキング ～ 第1位はイオン北海道、第2位はコープさっぽろ

ランキング第1位は売上高 3384 億 5600 万円（前期比 65.5%増）を計上した**イオン北海道（株）**で、同社は2020年3月1日付でマックスバリュ北海道（株）を吸収合併し、（生協）コープさっぽろを抜きトップとなった。第2位は売上高 3160 億 4200 万円（同 8.3%増）の**（生協）コープさっぽろ**。第3位はアークスグループの中核、**（株）ラルズ**で売上高 1408 億 3000 万円（同 9.0%増）。**（株）ホクレン商事**は同 0.7%増の売上高 658 億 7800 万円第4位となった。またアークスグループの1社である**（株）東光ストア**は同 6.4%増の売上高 468 億 9500 万円を計上して第5位にランキングされた。

2020年度 北海道内スーパーストア売上高ランキング

（金額単位：百万円）

順位	前年 順位	法人名	所在地	店舗名	店舗数 (決算時)	決算期 (月)	2020年度 売上高	2019年度 売上高	伸び率 (%)
1	2	イオン北海道(株)	札幌市	イオンほか	168	2	338,456	204,510	65.5
2	1	(生協)コープさっぽろ	札幌市	コープさっぽろ	107	3	316,042	291,703	8.3
3	4	(株)ラルズ	札幌市	スーパーアークスほか	74	2	140,830	129,220	9.0
4	5	(株)ホクレン商事	札幌市	ホクレンショップ ほか	56	3	65,878	65,443	0.7
5	6	(株)東光ストア	札幌市	東光ストア ほか	28	2	46,895	44,069	6.4
6	7	(株)道北アークス	旭川市	スーパーチェーンふじ ほか	42	2	44,770	42,740	4.7
7	8	(株)福原	帯広市	フクハラ ほか	42	2	43,373	42,182	2.8
8	10	(株)ダイイチ	帯広市	ダイイチ	22	9	43,170	41,028	5.2
9	9	北雄ラッキー(株)	札幌市	ラッキーほか	34	2	40,913	41,066	▲ 0.4
10	11	(株)道南ラルズ	北斗市	ラルズマート ほか	18	2	25,742	24,359	5.7
11	12	(株)道東アークス	北見市	ラルズマート ほか	14	2	20,642	19,929	3.6
12	13	(株)北海道ジェイ・アール・ フレッシュネス・リテール	札幌市	JR生鮮市場	9	3	17,971	17,754	1.2
13	14	(株)豊月	苫小牧市	フードD	12	1	15,794	15,483	2.0
14	15	(株)津司	札幌市	卸売スーパー	8	4	12,000	11,000	9.1
15	16	(有)魚長	函館市	生鮮夢市場 ほか	19	2	10,450	10,618	▲ 1.6
16	18	(株)ダイゼン	鷹栖町	DZマート	19	9	6,347	5,455	16.4
17	19	(株)モリワキ	札幌市	北海市場	6	12	6,080	4,800	26.7
18	17	(株)東武	中標津町	東武サウスヒルズ ほか	2	1	5,200	5,500	▲ 5.5
19	21	(株)一ウ商事	札幌市	マンボウ西野店	1	2	3,750	3,650	2.7
20	20	(株)ハピオ	音更町	ハピオ	1	3	3,592	3,742	▲ 4.0

※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継
また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

※3 (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

※4 (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更

※5 イオン北海道(株)は2020年3月1日付でマックスバリュ北海道(株)を吸収合併

※6 (株)北海道ジェイ・アール・フレッシュネス・リテールは2021年10月1日付で北海道キヨスク(株)(現・JR北海道フレッシュキヨスク(株))と合併して解散

2. 大手3強の売上高～イオン北海道が3384億5600万円でトップに

大手3強の売上高を見ると、2020年3月1日付でマックスバリュ北海道(株)を吸収合併したイオン北海道(株)が前期比65.5%増の3384億5600万円を計上してトップとなった。なお、合併前の前年度におけるマックスバリュ北海道(株)との合算数字で比較すると0.1%の増加となった。第2位は(生協)コープさっぽろ及び業務提携先の(有)魚長(函館市)(株)中央スーパー(留萌市)のグループ。2019年9月に(生協)コープさっぽろと(株)中央スーパーは業務提携契約書を締結し、同グループの店舗数は130、2020年度における売上高合計は3285億600万円となった。

アークスグループ(道内本社6社)は店舗数218、売上高合計は前期比6.5%増の3222億5200万円で第3位となった。

2020年度(2020年4月期～2021年3月期)大手3強の売上高

●イオングループ売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2019年度	2020年度	伸び率 (%)
イオン北海道(株)※1※3	168	204,510	338,456	65.5
マックスバリュ北海道(株)※2	-	133,507	-	-
合 計	168	338,017	338,456	0.1

※1 イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

※2 マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの食品スーパー7店舗を承継。

また同年10月より(株)いちまるのスーパーストア14店舗を承継

※3 2020年3月1日付でイオン北海道(株)はマックスバリュ北海道(株)を吸収合併

●(生協)コープさっぽろ及び業務提携先売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2019年度	2020年度	伸び率 (%)
(生協)コープさっぽろ	107	291,703	316,042	8.3
(有)魚長	19	10,618	10,450	▲1.6
(株)中央スーパー※1	4	1,940	2,014	3.8
合 計	130	304,261	328,506	8.0

※1: (株)中央スーパーは2019年9月に(生協)コープさっぽろと業務提携契約書を締結

●アークスグループ売上高

(単位:百万円)

企業名	店舗数	2019年度	2020年度	伸び率 (%)
(株)ラルズ	74	129,220	140,830	9.0
(株)東光ストア	28	44,069	46,895	6.4
(株)道北アークス	42	42,740	44,770	4.7
(株)福原	42	42,182	43,373	2.8
(株)道南ラルズ	18	24,359	25,742	5.7
(株)道東アークス※1	14	19,929	20,642	3.6
合 計	218	302,499	322,252	6.5

※1: (株)道東ラルズは2016年3月に(株)篠原商店を合併、(株)道東ラルズは(株)道東アークスに商号を変更

3. 上位 50 社売上高合計 ～1 兆 2405 億 400 万円で前年度比 4.1%増

売上高ランキング上位 50 社の売上高合計は、1 兆 2405 億 400 万円となり、前年度 (1 兆 1917 億 5100 万円) から 4.1%増で推移した。上位 10 社の売上高合計は、50 社合計の 89.2%を占める 1 兆 1060 億 6900 万円で、前年度 (1 兆 354 億 6800 万円) から 6.8%増で推移。

上位 50 社に占める上位 10

社の売上高合計の構成比は前期 (86.9%) から 2.3 ポイント増加しており、一層の寡占化がうかがわれる。売上高が前年度比増収 (横ばい含む) の企業は上位 50 社中 29 社、減収企業は 21 社となり、増収企業の数が増えた。

4. トップ 10 企業の動向

スーパーストア売上高ランキング推移 (2011年度～2020年度)

順位	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	(生協)コープさっぽろ	イオン北海道(株)
2	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	イオン北海道(株)	(生協)コープさっぽろ
3	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ラルズ	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	(株)ラルズ
4	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	マックスバリュ北海道(株)	(株)ラルズ	(株)ラルズ	(株)ホクレン商事
5	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)ホクレン商事	(株)東光ストア
6	(株)東光ストア	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)道北アークス
7	(株)福原	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)東光ストア	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)道北アークス	(株)福原
8	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	(株)福原	(株)ダイイチ
9	(株)ふじ	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	(株)福原	(株)福原	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)	北雄ラッキー(株)
10	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)ダイイチ	(株)道南ラルズ

[注1] (株)ふじは2012年7月に(株)道北ラルズと合併し、(株)道北アークスへ商号変更

[注2] イオン北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の総合スーパー9店舗を承継

[注3] マックスバリュ北海道(株)は2015年9月より(株)ダイエーの北海道地区の食品スーパー7店舗を承継。

また同年10月1日付で(株)いちまるよりスーパーストア14店舗を承継

[注4] (株)ダイイチは2016年10月1日付で(株)オーケー(音更町)を吸収合併

[注5] イオン北海道(株)は2020年3月1日付でマックスバリュ北海道(株)を吸収合併

イオン北海道(株)は、2020年3月1日にマックスバリュ北海道(株)と経営統合し、新生イオン北海道としてスタートした。期中にマックスバリュ日新店(苫小牧市)、ザ・ビッグアモール店(旭川市)を新たに开店したほか、「まいばすけっと」3店舗を札幌市に开店。インターネット販売事業においても新サービスや新たな専用WEBサイトの立ち上げを行うなどして受注拡大に注力、売上高は前期比65.5%増の3384億5600万円を計上した。

(生協) コープさっぽろは、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛要請などに伴い、家庭内での飲食機会が増加したことから惣菜品、弁当、麺類など幅広い商材の販売が増加、需要増加に対応した仕入れの充実や店舗での陳列見直しなども同時に行ったことで特需ともいえる受注を確保。宅配事業部門は期中に函館市内および旭川市内に新たに配送センターを開設したことで供給力の向上を図った。売上高は前期比8.3%増の3160億4200万円を計上した。

(株) ラルズは、期中の2020年10月以降、「スーパーアークス東苗穂店」(札幌市東区)を新規开店したほか、ビッグハウス3店舗の改装を行うことで集客力の向上に努めた。主力である青果、精肉、鮮魚の生鮮3品は新型コロナウイルス感染拡大で自宅で食事をするケースが大幅に増えたことから需要は拡大、売上高は前期比9.0%増の1408億3000万円を計上した。

(株) ホクレン商事は、期中に大型店舗の「東苗穂店」など6店舗を閉店したものの、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛要請から自宅での巣ごもり需要が増加、既存店は増収基調で推移した。売上高は前期比0.7%増の658億7800万円を計上した。

(株) 東光ストアは、新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発出されるなか、外出自粛により巣ごもり需要は拡大。消費者の購入金額、購入点数が増加するなか、従来と同様に高価格～低価格商品まで幅広い商品構成を維持し、消費者の選択肢を広げる商品提供に注力、売上高は前期比6.4%増の468億9500万円を計上した。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 札幌支店 担当:柳澤、松田、篠塚
TEL 011-272-3933 FAX 011-272-3934

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。